

名前：

情報化社会になつてからというもの、インターネットは重要なメディアとして存在している。確かに、インターネットのおかげで、現代人はどんな情報も簡単に取れるようになって、国際化時代に入りつつある。だが、インターネットは便利だとはいえ、新聞や雑誌がもういらないわけではない。かわりに、新聞や雑誌はあいかわらず、自分なりの価値を保持して、残されると思う。紙は木によって作られて、生命力を持つからだと思う。

インターネットと新聞などと比較すると、何となくつめたい感じがする。ノートを書くのもできないし、メディアと直接触れない。また、インターネットでどんな情報も書き込まれる可能性がある一方で、新聞などは編集者によって選ばれた情報で、信頼性は比較的に高い。もちろん、有名なサイトも信頼できるが、ネットの情報が多すぎるせいか、採用するとき、あらためて確認する必要がある。一方、自分の写真や名前は新聞にでてく

るといいことのみつ、当事者はきつとわくわくする。記念できるからだ。でも、ネットなら、そのような興奮はなかなかでてこない。

今、欧米の先進国を除いて、世界中ネットを使う人口はまだわずか的一部分を占めている。新聞や雑誌などが必要のほうでもない。捨てようにもできないと言える。その上、将来世界中の人はネットが使えるようになる。でも、新聞なども消えるはずがない。つめたいパソコンに対して、温度があつてあたたかい紙のほうが気に合うからだ。そして、古い新聞なども、歴史のあかしになる。数十年前の新聞を読みながら、その時代の出来事やふんいきを考えて、なつかしい感じがする。紙も命があつたこそ、そんな感じがする。

これからも、新聞や雑誌は必要だ。それにしても、発行量は減るに違いない。また、環境を保つため、紙のむだもしないほうがいい。要するに、ネットと新聞は、どちらも重要で、それぞれの価値がある。